

日常談話における「ちょっと」の多義性と非流暢性

鹿嶋 恵(熊本大学) 西村 史子(ワイカト大学)

1. はじめに

日常談話の中で頻繁に用いられることばに「ちょっと」がある。一般的には、量や程度を表す程度副詞としての「ちょっと」が想起されよう。しかし、「ちょっと」には副詞的用法のみならず感動詞的用法も認められており、配慮表現をはじめ、モダリティ、発話行為、談話機能等、様々な視点や領域でも検討の対象とされてきた。また、自然な談話資料での用いられ方はさらに複雑で、言い淀みの「ちょっと…」や、語頭が途切れて反復される形の「ちょ、ちょっと」等、いわゆる非流暢な要素 (cf. 定延, 2022) を伴う場合も少なくない。一方、認知言語学の視点に立てば、「ちょっと」はまさに多義性 (cf. Lakoff, 1987) を備えた多義語 (cf. 杉山, 2021) と言える。

本発表では、談話分析および認知言語学の視点から、「ちょっと」の多義性と構造を明らかにする。また、その結果を元に「ちょっと」と非流暢性との関係を検討する。具体的には、現代日本語研究会編 (2016) を談話資料とし (以下『日常』)、そこで用いられている「ちょっと」を含む用例について、特に「少し」に言い換えが難しい「ちょっと」に焦点を当て、分析と考察を試みる。

2. 「ちょっと」から「少し」への言い換え可/難

本研究ではまず、『日常』から「ちょっと」を含む用例 (639 例) を検索・抽出し、さらに〈少量/低程度〉を表す「少し」に言い換えが可能かどうかを判定した。判定は、日本語母語話者 2 名が別個に行い、後にそれを照合・協議して決定した。

その結果、図1のように、《「少し」言換可》の「ちょっと」が5割強 (350 例, 54.8%) に対し、《「少し」言換難》の「ちょっと」も4割強 (272 例, 42.6%) を占めた。判定不明は17例 (2.7%) である。すなわち、『日常』に出現する「ちょっと」の4割強は、〈少量/低程度〉を表す「少し」に言い換えができないかそれが難しい「ちょっと」であった。

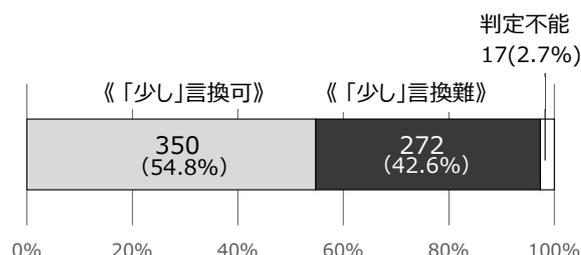


図1 「ちょっと」から「少し」への言い換え可/難

3. 《「少し」言換難》の「ちょっと」の意味・機能

本研究ではさらに、上記の《「少し」言換難》の「ちょっと」に焦点を絞り、《「少し」言換難》の「ちょっと」が発話文内で何を修飾しているか (あるいは修飾していないか) を主な基準に、意味・機能の検討を行った。その結果、A~E型の5種を抽出できた (cf. 図2)。以下、順に主な特性と下位分類を挙げる。

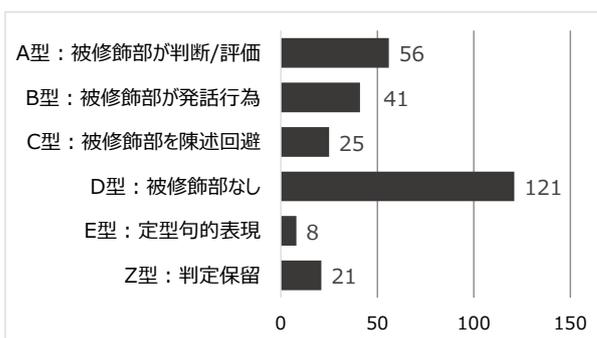


図2 《「少し」言換難》の「ちょっと」の型と用例数

3.1 A型：被修飾部が判断/評価を示す「ちょっと」

A型には2つのタイプがある (以下、用例は次頁参照。「ちょっと」に下線を付す。[]内数字は『日常』の行通し番号。その他の文字化記号は『日常』を参照)。

A-1型：否定的な判断/評価が、「ちょっと」により程度を限定、緩和されているもの →例(1)

A-2型：「ちょっと」の意味が「かなり」に近く、高い程度と理解できるもの →例(2)

両者は付加部に現れながらもモダリティ要素を含み (cf. 益岡, 2007)、話し手の判断/評価を限定する点で類似する。

3.2 B型：被修飾部が発話行為である「ちょっと」

B型は、修飾部が発話行為であり、働きかけ/応答の違いや、受益者の違いから3つのタイプに分けられる。

B-1型：話し手自らの行為に関するもの →例(3)

B-2型：相手の未来の行為に関するもの →例(4)

B-3型：否定的な応答を緩和するもの →例(5), (9d)

B-1型とB-2型は、〈話し手からの働きかけ〉である点で類似する。一方、B-2型とB-3型は〈聞き手に負担/不利益〉が生じる点で類似する。これらの発話行為は、聞き手の消極的フェイス (face), 或いは話し手の積極的フェイスを脅かす FTAs (face threatening acts) に相当し、「ちょっと」はその回避/緩和の為の補償方略として用いられている。

3.3 C型：被修飾部が陳述回避される「ちょっと」

C型は、被修飾部を陳述回避する形式的特徴を持ち、B-3型と同様の発話行為の遂行場面で用いられる。→例(6)

3.4 D型：被修飾部がない「ちょっと」

D型は、被修飾部がないもので、3タイプがある。

D-1型：〈呼びかけ〉 →例(7)

D-2型：〈とがめ/非難〉 →例(8)

D-3型：〈フィラー〉 →例(9a), (9b), (9c)

D-1型とD-2型は、それ自体がFTAを行う発話行為でありB型と類似する。また両者は共に〈発話の開始〉時に用いられる。一方、D-3型はB型とは直接的には関わらないが、〈発話権の維持〉機能を担う点でD-1型D-2型と共通する。

3.5 E型：定型句的に使われる「ちょっと」

E型は、「ちょっと」が名詞 (物事) を修飾し、「ちょっとしたN」などの定型をとる。→例(10)

この型はA型と同様、モダリティ要素を限定する機能を担う。『日常』には、他に「ちょっと一言」「8時ちょっと」等の例が見られた。

C型：被修飾部が陳述回避される「ちょっと」の例

(6) 帰省に際し、実家の二段式ガレージの使用の可能性について妻が夫に説明中。[16597]

妻：うん、て言 (い) うか、てんげーん (=点検)、してもらってんのかなっていう、その辺がちょっと。

E型：定型句的に使われる「ちょっと」の例

(10) 共通の知人の就活について車中で雑談中。[19404]

上司：→ちょっと←したライバル会社<少し間>に、なるんだけどー=、

A型：被修飾部が判断/評価を示す「ちょっと」の例

(1) 職場で休憩中に桃の置き場について相談中。[23863]

上司：で、右のとこ (=所) はちょっと置けないでしょ?、 《後略》

(2) 研究職ポストの厳しさを2人で雑談中。[20401]

同僚B：でも、それしか、ま (=まあ)、よっぽどな<少し間>成果がなかったら、ちょっと難 (むずか) しいですよ。

B型：被修飾部が発話行為である「ちょっと」の例

(3) 補聴器店で補聴器を耳かけ式に変えようかと客が相談中。[23173]

店員：で、<沈黙>ちょっと新しい資料をお持ちしますね。【資料を取りに行く】

(4) 裂き織り教室で他店から預かっている布の有無を確認中。[88538]

先生：ありますか?↑ ちょっと見せてください。

(5) 自宅で夫婦がテレビを見ながら食事中。[22468]

妻:<沈黙4秒>テレビちっちゃく (=小さく) ない?。

夫：ん?↑、今ちょっと、これ (※談話録音)、や、やってるから=。

D型：被修飾部がない「ちょっと」の例

(7) 教材編集会議にて問題の提示順序や重要度の表示法を相談中。[6043]

委員E：→いち、いちいち←、必ず、こう、上から順番に↑、混ぜてきて↑、置いてきて、下 (した) は切れるようにしてお★くの?。

委員B：→ちょ (=ちょっと) ←、ほ (=「星」の1拍目)、何 (なん) か星か花か何 (なん) か★##。

(8) 遠出後の帰宅途中で道に迷い車中でどうすべきか相談中。[2363]

友人C：=遊びたがりかー?↑、おまえは←笑い [複] >。

友人B：ちょっと←★ー。

(9) 自宅でPCゲームの設定作業中。[18824]

友人A：これは、じゃあ、保存、保存すん (=するん) でしょ?。

友人B：うーん、いや、いや、よくわか (=「分からない」と言いかける)、うーん。そ、そのへんが、a) ちょ (=「ちょっと」と言いかける)
b) ちょっと、そういうのは c) ちょっと俺、d) ちょっと分からない。

4. 《「少し」言換難》の「ちょっと」の多義構造

ここまで、〈少量/低程度〉を表す「少し」に言い換えができないかそれが難しい「ちょっと」《「少し」言換難》に焦点を絞り、その意味・機能を検討してきた。結果、A型～E型の5種を抽出できた。次に、これら複数の意味・機能を「ちょっと」という多義語の1カテゴリーとして捉え、そこで共通する意味・機能、すなわち「スキーマ的意味」(cf. 初山, 2021)や、その派生/拡張関係、および構造を確認したい。

Langacker (1991; 2008) は、プロトタイプ、拡張事例、スキーマからなる最小のネットワーク (cf. 図3) を示しており、このような構造を持つカテゴリー化のモデルが「スキーマティック・ネットワークモデル」と呼ばれている。同モデルに基づけば、《「少し」言換難》の「ちょっと」のカテゴリーには、プロトタイプの意味〈少量/低程度〉を中核とした拡張とリンクから成るネットワーク構造が想定できる。

このネットワーク構造には、プロトタイプの意味〈少量/低程度〉と類似性を持つ2次的成員として、5種の拡張事例 (A-1型, B-1型, B-2型, B-3型, D-1型) が認定できる。また、プロトタイプの意味とは直接的な類似性はないものの、2次的成員との類似性を持つ3次的成員として、A-1型からはA-2型とE型, B-3型からはC型, D-1型からはD-2型とD-3型が認定でき、いずれも拡張事例と言える。

このうちA型2種とE型に共通するのは〈モダリティ要素の程度限定〉というスキーマであり、またB型3種に共通するのは〈発話行為の程度緩和・FTAの回避/緩和〉である。これら2つのスキーマの上位に共通するスキーマとして抽出できるのが〈被修飾部の程度限定〉である。このスキーマは、プロトタイプの意味〈少量/低程度〉とも共通の特性を持つため、スーパースキーマとして認定できる。

一方、D型の3種に共通するスキーマは〈発話権の維持〉であり、中でもD-1型とD-2型は〈発話の開始〉という共通スキーマをもつ。一方、D-3型は〈発話権の維持〉は担うものの、〈発話の開始〉の機能はない。このようなD型3種のスーパースキーマとして〈被修飾部なし・談話管理機能〉が抽出できる。

この〈被修飾部なし・談話管理機能〉は、プロトタイプの意味〈少量/低程度〉と直接のリンクはない。しかし、D-1型〈呼びかけ〉とD-2型〈とがめ/非難〉は、それ自身がFTAを行う発話行為であり、特にD-1型はB型共通のスキーマ〈発話行為の程度緩和・FTAの回避/緩和〉とリンクする。そのため、2つのスーパースキーマ〈被修飾部の程度限定〉と〈被修飾部なし・談話管理機能〉の間には直接的なリンクはないものの、D-1型を介した下位リンクの存在が認定できる。

以上、《「少し」言換難》の「ちょっと」の意味・機能のネットワーク構造を示すと図4のようになる。

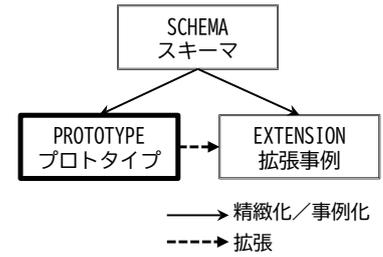


図3 ネットワーク
参考 Langacker (1991: 271)

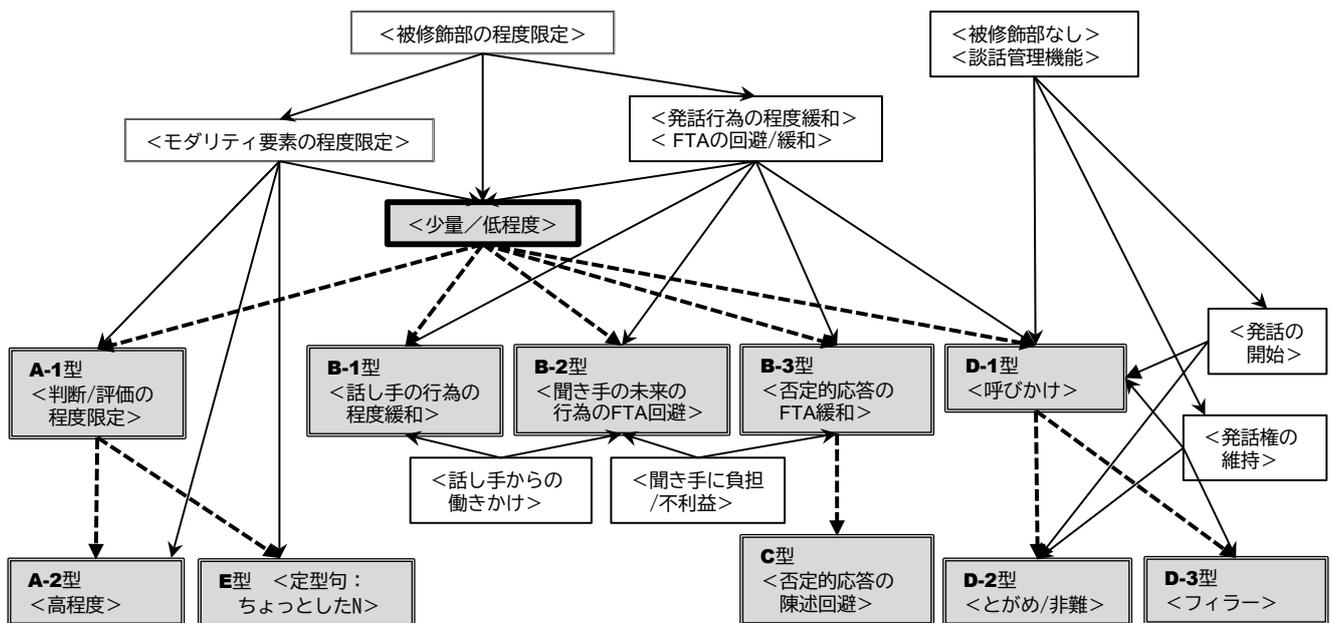


図4 「少し」に言い換えが難しい「ちょっと」の意味・機能のネットワーク構造

5. 《「少し」言換難》の「ちょっと」が関与する非流暢性

最後に、《「少し」言換難》の「ちょっと」が関与する非流暢性を見ておきたい。「ちょっと」がプロトタイプの意味〈少量/低程度〉の表出に使用される際には、当然その命題内容の伝達が優先され、非流暢性との関わりは弱い。だが、その意味が派生されて周辺のな位置づけになっても、必ずしも非流暢性が強くなるわけではない。拡張の過程を経てプロトタイプの意味が希薄化し、〈高程度〉やくとがめ/非難等の新たな意味・機能を得た「ちょっと」は、その伝達が優先されれば非流暢性との関係も弱くなる。一方で「ちょっと」の中には非流暢性と密接に関わるものがある。ここで被修飾部が陳述回避されるC型「ちょっと」と、被修飾部がないD型の「ちょ」に焦点を当て、非流暢性との関係を見ておきたい。

5.1 被修飾部が陳述回避されるC型の「ちょっと」と非流暢性

対人関係の調整に関わる「ちょっと」は、被修飾部の発話行為におけるFTAの度合いに大きく影響を受ける。[依頼]や[断り]等、FTAの度合いが大きい発話行為ほどその補償方略が重要になり、程度緩和の必要性が増してくる。そのような発話行為と共に用いられるB型やC型の「ちょっと」は、FTAの緩和機能を担う。特にC型の「ちょっと」は、それを発話するだけで被修飾部を陳述せずとも否定的な応答が暗示され、B-3型「ちょっと」と同様の発話意図/発話内効力が伝達される。このようなC型「ちょっと」は、形式的には非流暢な形でありながらも当該発話場面においては決して不自然ではなく、日常談話にて一般的かつ規則的に用いられている。その背景には、プロトタイプの意味〈少量/低程度〉を中核とした多義ネットワークの存在の影響が考えられる。

5.2 被修飾部がないD型の「ちょっと(ちょ)」と非流暢性

次に、先の例(7)や例(9a)で見た「ちょ」という形式に注目したい。これら「ちょ」は音声の文字化作業者に「(=ちょっと)」と注釈され、「ちょっと」と同等/その一部と認識されていることがわかる。例(7)では、当該話者が発話の冒頭にて相手の発話に重複する形で「ちょ」を用いてD-1型〈呼びかけ〉の「ちょっと」と同様の機能を果たし、かつ単独で話順を取って話順交替を実現している。一方、例(9a)(9b)では「a)ちょ、b)ちょっと」が続けて用いられている。この連続では他のフィラーではなく敢えて「ちょ」が使用されており、話し手の認識内には後続の「ちょっと」との連続性や必然性が読み取れる。このように「ちょ」が「ちょっと」と同じと認識され同様の機能を実現している現象には、やはり「ちょっと」のプロトタイプの意味とそのネットワークに影響を受けていることが考えられる。

6. おわりに

以上、本稿では現代日本語研究会編(2016)の談話資料を元に、「ちょっと」の複数の意味・機能について、多義性やその構造の解明、非流暢性との関係の検討を行った。結果、4点が得られた。1)同資料に現れた「ちょっと」639例のうち、「少し」に言い換えができないか難しいもの《「少し」言換難》が4割強を占めた。2)《「少し」言換難》の「ちょっと」の意味・機能には5型(A~E型)が抽出できた。3)スキーマティック・ネットワークモデルに基づく分析結果、「ちょっと」の意味・機能5型には、プロトタイプの意味〈少量/低程度〉を中核とした拡張とリンクから成るネットワーク構造があり、その中には2つのスーパースキーマが抽出できた。4)5型のうち、特に被修飾部が陳述回避されるC型と、被修飾部がないD型の一形式「ちょ」は、非流暢な形式ながらも自然な発話として機能しており、その背景にはプロトタイプの意味〈少量/低程度〉を中核とする「ちょっと」の多義ネットワークの影響が考えられた。

* 本研究はJSPS科研費(課題番号:20H05630)の助成を受けたものである。

参考文献

- 現代日本語研究会編(2016). 談話資料 日常生活のことば ひつじ書房
- Lakoff, George (1987). *Women, Fire, and Dangerous Things*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Langacker, Ronald W. (1991). *Concept, image, and symbol: the cognitive basis of grammar*. Mouton de Gruyter.
- Langacker, Ronald W. (2008). *Cognitive grammar: a basic introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- 益岡隆志(2007). 日本語モダリティ探究 くろしお出版
- 靱山洋介(2021). [例解] 日本語の多義語研究 認知言語学の視点から 大修館書店
- 定延利之(2022). 非流暢で自然な日本語: 記述言語学の観点から 鎌田修(監) 鎌田修・由井紀久子・池田隆介(編) 日本語プロフィエンス研究の広がり ひつじ書房 pp. 77-88.